

インスパイアとか発想とか・・・

CMEO 事業部 田村一雄

このコラムを 2010 年 2 月号から書き始めて 9 回目となりました。何号か前に既にも書くネタは尽きていたのですが、なんとかここまで引っ張って書くことができました。しかし、今回はカラカラであります。そこで CMEO 事業部シニアマネージャーであり、この Yano E plus の編集長でもある稲垣さんに相談したところ、「インスパイアとか発想とか・・・」と言われたのでそのままのタイトルで書いてみることにしました。締め切り一日前です。これまでこんなことはなかったのに。

さて、私は特別なインスパイア法とか発想法とか・・・があるとは思っていませんので、稲垣編集長がなぜこのような要請をしたのかよくわからないのですが、ただ、私がほかの人とは変わった発言をしたりすることが多いのでそう見えるのかもしれない。であるならば、私としても自分の内部からなぜそういった考え方や発言が出てくるのか、自分で自分の内部を探ってみるということも、誠に勝手ではありますが有意義かもしれません。

また、いろんなシーンで「発想」が求められるでしょうが、私としては仕事柄、マネジメント、企画（テーマ設定）、文章・コピー（宣伝文句）作成といったあたりが主戦場ですので、これを読んでくれた人にとって何かのヒントにでもなればということ意識しながら書いてみたいと思います。

目立とう精神に則った一言多い子供、人と同じことをしてはダメだ

私は子供の頃から中坊時代まで、よく学校の先生に「ひとこと」と呼ばれていました。「お前は一言多い」ということです。複数の先生に言われていたので先生方の認識は一致していたのでしょう。なぜそういう子供だったのか。背景などはあまり考えたくないのですが、まず目立とう精神が旺盛だったこと、目立つためにはありきたりなことを言ったのでは注目されないだろうと子供ながらに薄々気付いていたこと、しかし、それは人見知りとか気弱の裏返的な要素も強かったろうと考えられるのです。大人にとってひとこと多い子供はうざったいし、本気で付き合っていると疲れます。同年代の友達達を傷つけてしまうというシーンも多かった気がします。その時々には友達はいましたが、ケンカも多くしたような気がします。

そのような習性というか性格はそうそう直るものではありません。私は高校以降もそのようなマインドを維持しつつ青春時代に突入していきました。

ひとこと多く何かを発するには、実はそれなりの観察力や分析力が必要です。インパクトのないひとことはただの「ひとりごと」であり、それが多くなるのはあぶない子供でしょう。そうか、私は他人を観察し分析し、人とは違う何かを見出してコメントしたことが「ひとこと」だったのね。

勘違いの作詞・作曲活動は文章・コピー作成の修行でもあった（気がする）

中学時代からはロックやフォークにのめり込みはじめ、バンドやったり自分には才能があると勘違いし作詞・作曲なども手掛けはじめました。高校時代には私が書いた楽曲を高く評価してくれて、それなりのルックスも相まって「先輩！先輩！！」と慕う音楽後輩や女子中学生なども常に周辺に存在していました。この時代、やはり目立とう精神が根底にありました。アーティストックな活動はオリジナルであることが重要です。私はオリジナルであることを心がけ続けた、つもりでした。今にして考えるとある日本のアーティストのモノマネに過ぎなかったのですが。ただ、歌詞を書く上では制約のある文字数の中にチョイスする言葉とそうでない言葉を選択しなければなりません。文章の長さにかかわらず、文章を書くということはそういうことです。そうした意味では私は文章を書く訓練を積んでいたのでしょう。今現在、このことは仕事に活かされていると思っています。

我々の仕事のひとつに自社企画レポートの案内（DM）を作成するという作業があります。この作業はその人の言葉のセンスが如実に表れるもので、指導してよくなる者もいればそうでない者もあり、最初から満点のコピーを書いてくる者もいます。そうでない者にとってはこの作業に苦しみが伴うことになるようなので、私はひとつアドバイスをすることがあります。「ポエムを書いてみる」と。しかし、このアドバイスの意味は通用しなかったようです。こうした私の背景をきちんと説明しなかったのと、現在の私のルックスからは「ポエム」などという言葉が出てくるとは到底考えられないというギャップが説得力につながらなかったのかもしれませんが。

考えて考え抜くと「全てのことはメッセージ」になる

話は変わりますが、かつて松任谷由実（当時・荒井由実）は「やさしさにつつまれたなら」という歌で「（やさしさにつつまれたなら きっと）目に映る すべてのことはメッセージ」と歌いました。

インスパイアされるマテリアルはどこにでも転がっているということです。やさしさに
つまれなくたって何かを考え抜いている人には「降りてきてくれる」チャンスが広がる
ものです。TV（マンガでもバラエティでも）をみていても本を読んでいても、場合によ
っては風景でも。それを忘れないために私はメモと筆記用具はリビングと寝室の片手で届
く範囲内に置いています。

インスピレーションが湧いてくる場所として風呂やトイレをあげる人が多いようです
が、ただリラックスできる場所だからということではなく、考えて考え抜いて緊張の糸が
フッと緩む瞬間に何かと何か結びついたりしてインスピレーションにつながるのでは
ないでしょうか。私の場合、オフィスでは席をはずして一人で一服したときにそれが出て
くることが多いようです。ちなみに、風呂に入るときはほとんど酒を飲んだ後だし、トイ
レも早く済ませるタイプなので、私の場合はパワースポットにはならないようです。

*1 最近私は部下達に新聞や業界誌などを継続的に読むようにしつつこく言っています。
インターネット検索が悪いとは言いません。グーグルでは調べたいピンポイントな用語は
みつかるし、必要に応じてリンクで関連用語も検索できるという非常に便利なもので
すが、日常で何が話題になって継続しているか、その頻度はどの程度かなど時間的な経緯を
感じることができるからです。2010/9/28 毎日新聞の夕刊特集ワイドで「キラリひらめき
術」という記事で放送作家の小山薫堂氏は、発想の妨げとしてインターネット検索が挙げ
られるとし、こんなことを言っています。「検索すればすぐに情報を引き出せるので、情
報に触れている気になりがちだが、それは外付けのハードディスクのようなもの。情報を
意識的に刻み込み自分の中に入れておかないと、化学反応は起きません」。

発想とは化学反応なのですね。

近道はない、足腰を鍛えてまずは「型」を身に付けよう

最近の35歳以下くらいのビジネスパーソンをみていると、早く仕事ができるようにな
りたい、早くポジションを得たい、早くいい給料を稼ぎたいという印象を強く持ちます。
ここでポイントとなるのは「早く」ということです。そうした人は私などからみると、学
校での勉強はできたのですが、下積みを嫌い、上司からとやかく指示されることを嫌
い、失敗を恐れ、怒られると凹んでしまう。私だって少なからずそうでした。一方で、こ
ういう人はなんとか症候群といった新しい病気にかかりがちなタイプでもあるようです。

最近の会社というか社会は、香山リカ先生のように、こうした新しい病気に対して極めてやさしい目でみてくれるようになってきたせいとか、ホントに簡単に病気になってしまうのです。^{※2}新しい病名が生まれるとそれだけ病人が増えるように思われます。社会は病気として認めてくれても私は認めないかもしれません。

「早く」一人前になんてなれません。なぜか。十分な下積みを積んでいないからです。下積み生活は足腰を鍛え、^{※3}「涙の数だけ強くなれる」からです。仕事を含め何かができるようになるということはダイエットと同じ。即効性のある方法なんて無いと考えるべきです。また、「型」を持っているということは強みです。「型」の習得には時間がかかります。「型」になっていないのは「型なし」、「型」が出来てそれを発展させたのが「型やぶり」なのです。多くの若者は型なしのくせに、いきなり型やぶりを目指しているように思えてしかたありません。

おわりに

要は他人と同じことをしない、ということにつきるのではないのでしょうか。新聞・雑誌などに書いてあったことを我が知識のように発言したり、人の話し方などがすぐ移ってしまう人も見かけますが、そういう自分を戒めることです。メディアを疑ってみることで。中庸から始めるのではなく極論から始めることです。

稲垣編集長おおお～～、こういう文章は難しいッスよ～。自分はいかにも発想に優れているとか言ってるみたいじゃないスかあ。読者の皆様、そんなことはありませんので。

※ いえいえ、期待通りです。「イチロー選手」も同様かと思います（稲垣）

[筆者注]

※1 可能な限り読んだ方がいいが、全てを読む必要はないと思います。また、疑問を持ちながら読むことが重要だと思います。

※2 「フリーター」という言葉ができて「フリーター」が増えたこととどこかつながるような気がします。「プータロー」なら繁殖の抑制がきくのではないのでしょうか。そういうケースは多いですね。

※3 岡本真夜 「TOMORROW」

執筆者略歴：田村一雄

1989年、(株)矢野経済研究所に入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事し、現在はデバイス領域まで調査領域を拡げ、CMEO事業部の事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有するほか、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。